

市政に臨む基本方針

平成30年（2018年）12月



苫小牧市長

岩倉博文

はじめに

平成18年（2006年）7月11日の初登庁から、これまで3期12年、私は全力で市政を運営してまいりました。

市長就任時から、危機的な財政状況の改善を最重要課題と位置づけ、1期目には財政健全化の道筋を示すこと、2期目には財政基盤を確立することに力を注いでまいりました。

その結果、財政指標は確実に好転し、3期目では財政基盤の強化に取り組んだことにより、健全性は確保される状態で推移しているところです。

一方、全国的に人口減少と少子高齢化が加速度的に進行する中、本市においても生産年齢人口の減少による税収減が予測されるほか、社会保障費や公共施設の更新費の増加など、今後も引き続き厳しい行財政運営が求められます。

そのため、4期目のテーマである「快適都市を目指して」を実現するための目標として「財政基盤のさらなる強化、そして20年先を見据えたまちづくりの実践」を掲げ、安定した税収の確保はもとより税外収入確保に向けた取り組みに知恵を絞り、健全な財政の維持に努めるとともに、ものづくり産業のさらなる集積、臨海ゾーンにおけるロジスティクスの構築、臨空ゾーンにおけるIR（カジノを含む統合型リゾート）などの国際観光リゾートの展開にチャレンジしてまいります。

また、（仮称）市民ホールの建設や、積み残しの課題である苫小牧駅前広場再生への取り組みにつきましても引き続き全力で取り組んでまいります。

市制施行70周年の節目から新しい一步を踏み出すに当たり、改めて、生まれ育ったふるさと苫小牧の近未来に向けた道づくりのため、私の力の全てを注ぎたいと決意しているところであります。

次の世代へもっとたくましい苫小牧を引き継ぐことができるよう、各種施策をしっかりと推進してまいります。

基本政策

以下、市民の皆さんと約束した公約に基づき、4年間で取り組む基本政策について申し上げます。

I 行革を進め、無駄のない 効率的な都市機能をもつまち苦小牧 築きます！

<新たな行財政計画を策定します>

行政改革につきましては、総合窓口の設置や給与計算業務の民間委託などを掲げた現行の「苦小牧市行政改革プラン—NEXT STAGE」を着実に進めるとともに、「新行政改革プラン2020（仮称）」を策定し、引き続き行政運営の効率化に取り組んでまいります。

また、将来にわたり財政の健全性を確保するため、人口構造の変化や公共施設の老朽化対応などを踏まえた財政シミュレーションを行い、現行の「財政基盤安定化計画」の後継となる計画を策定してまいります。

<女性活躍社会の実現を目指します>

男女平等参画講演会や講座を実施するとともに、ワーク・ライフ・バランスをテーマにした官民合同研修を開催するなど、市民・団体・企業・行政が連携し、男女平等参画社会の実現に向けた取り組みを進めてまいります。

また、育児などを理由に離職した女性の復職を支援する、なでしこ就職応援事業を進めてまいります。

さらに、女性が活躍する社会の実現に向け、市役所の女性職員を対象に管理職への昇任意欲の高揚を図り、女性管理職の割合を現在の22%から段階的に30%へ引き上げてまいります。

<人口減少を抑制します>

雇用機会の拡大及び生産年齢人口の確保に向け、IR（カジノを含む統合型リゾート）をはじめとする国際観光リゾート構想を推進し、観光産業の強化に取り組んでまいります。

また、立地企業への各種助成制度を見直し、さらなる産業の集積を図ることに加え、奨学金返還支援制度などを創設することに

より、若者の市内就職を促してまいります。

多子世帯への生活応援制度につきましては、第3子以降を対象にした給食費の負担軽減や施設利用の割引制度拡充などを検討してまいります。

<市営住宅の適正な管理に努めます>

市営住宅の整備につきましては、建物の長寿命化と民間住宅の活用などにより事業費の平準化を図りつつ、「苫小牧市営住宅整備計画」に基づき、20年後の目標管理戸数約5,000戸に向けて段階的な削減を行い、管理戸数の適正化に努めてまいります。

また、市営住宅管理業務につきましては、民間委託などの効果的な管理方法を検討し、サービス向上と費用削減を図ってまいります。

<職員の資質の向上、コンプライアンスの徹底を図ります>

不適切な事務処理についての事例研究やロールプレイング形式の体験型研修など、より効果の高い職員研修を実施し、職員の資質向上を図ってまいります。

また、運転実技研修やドライブレコーダーによる発生原因の検証を行うとともに、新たにゴールド免許証の保有調査を実施し、公用車による事故違反の根絶を目指してまいります。

II 産業流通の活性化、働く人の明るい 笑顔あふれるまち苫小牧 導きます！

<駅前広場を苫小牧の顔として復活させます>

苫小牧駅前につきましては、旧サンプラザビル跡地の利活用に向けて地権者の協力のもと権利集約を最優先に取り組み、新たな顔づくりを進めてまいります。さらに駅前広場を再整備する際には、バスと鉄道の乗継拠点機能の強化を図るなど、公共交通の利便性の向上に努めてまいります。

また、駅前を明るくする取り組みとして、駅前広場を中心にイルミネーション及び集客イベントを実施するとともに、朝市の開催など、季節に応じた企画の実施についても検討を進め、まちなかのにぎわい創出に努めてまいります。

<中小企業や商店街の活性化と農林水産業の振興を図ります>

中小企業の振興につきましては、創業促進や人材確保・育成、販路拡大などの支援を「苫小牧市中小企業振興計画」に基づき着実に進めてまいります。さらに、店舗改装費補助金を利用者のニーズに見合った制度へ再構築するなど、商店街の支援を強化してまいります。

また、水産業の振興につきましては、苫小牧産ほっき貝のブランド化に対する支援に加え、マツカワの種苗放流や公設地方卸売市場の活魚水槽の増設などを進めてまいります。さらに、林業分野におきましては、森林情報をデータベース化することで、民間事業者の円滑な森林経営に寄与するとともに、森林環境譲与税（仮称）を活用した森林整備の促進を図ってまいります。

<苫小牧港のロジスティクス機能の強化を図ります>

北海道産の農水産品輸出拡大に向け、貯蔵・加工機能など、付加価値向上に資する食関連産業の誘致を進めるとともに、関係企業・団体はもとより、本年、連携協定を締結した八戸市などと連携し、海上輸送におけるロジスティクス機能の強化に取り組んでまいります。

また、さらなる物流の効率化と安定性を高めるため、混雑している西港区のふ頭再編やRORO船の荷役効率化を図るとともに、北海道胆振東部地震を教訓とした大規模災害への対応を進めるなど、地域産業の競争力強化に資する物流機能の向上に取り組んでまいります。

<観光産業の振興を図り、苫小牧をPRします>

滞在型観光の振興につきましては、「苫小牧国際リゾート構想」を主軸とした観光ハブを目指すとともに、ダブルポートを有する地理的優位性をいかしたフライ&クルーズの誘致を進めてまいります。さらに、増加傾向にあるインバウンドの受入環境の整備を進め、SNSなどのさまざまなツールを活用し、国内外へ情報を発信してまいります。

また、観光資源へのアクセス道路にネーミングライツを導入し、道路の修繕費用などの財源確保を図るとともに、本市及び本市に関連のある企業・団体のPRを実施してまいります。

<新千歳空港の民営化を見据えた施策を展開します>

航路下地域住民との意思疎通を図り、ウトナイ交流センター展望施設を開設するほか、植苗地区道営住宅整備など、地域が望む振興策を進めてまいります。

また、国際線エプロン拡張などの新千歳空港の機能強化を図り、良好なアクセスをいかした多様な産業の誘致を進めるほか、観光やスポーツなどを通じた交流人口拡大を促進してまいります。

Ⅲ お年寄りや子どもたちが安心して暮らせるまち苫小牧 育てます！

<「苫小牧版地域包括ケアシステム」の構築を進めます>

苫小牧版の医療・介護連携のルールづくりを進めるほか、多職種研修会を開催するなど、地域の特性に応じた連携強化に努めてまいります。

また、介護福祉施設の整備を進めるとともに、苫小牧市医師会をはじめとする関係機関の協力の下、在宅訪問医や医療機関による在宅医療支援グループを編成し、在宅患者の医療体制強化に取り組んでまいります。さらに、医療的ケア児が身近な地域で短期入所などの支援が受けられる体制の整備を進めてまいります。

<子どもたちの健康と安全を守る施策を実施します>

医療費助成制度の入院における助成対象を現行の小学生から中学生に拡大し、子どもたちの健康を守るとともに子育て世帯の経済的負担を軽減してまいります。

また、児童福祉分野における専門家の意見や市民の声を取り入れながら「児童虐待防止条例」を制定し、子どもの健やかな成長が守られる社会の実現に努めてまいります。

<子どもたちに必要な施設の誘致、整備を進めます>

北海道が示した本市への室蘭児童相談所分室設置の方針を踏まえ、具体的な協議を進めるとともに、本市の子ども家庭総合支援拠点の設置に向けた検討を加速し、児童虐待対応を含めた相談体制の強化に取り組んでまいります。

また、適切な教育環境の整備に向けて、本市の所管施設を有効活用した特別支援学校の誘致を北海道に要望してまいります。

＜市民の生命・財産を守る施策を実施します＞

消防署日新出張所の建て替えを進めるほか、大型水槽車を導入し、水利不便地域での消火能力を向上させるなど、消防力の強化を図ってまいります。さらに、エネルギー・産業基盤対応型消防水利システムに付属する大型ドローンなどの導入を国と連携して進めてまいります。

また、市立病院につきましては、健全経営に努めるとともに東胆振・日高医療圏の中核病院としての機能強化を図るほか、専門医などの確保にも効果的である、手術支援ロボットなどの先進医療機器導入の検討を進めてまいります。さらに、北海道自治体病院協議会の事務局を担うことにより、関係機関との情報共有、連携の強化を図り、医師の確保・充実に努めてまいります。

＜災害時でも安心な市民生活の確保に努めます＞

小中学校にWi-Fiを段階的に設置し、災害時の情報収集や安否確認などの手段であるインターネットへの接続環境を整え、避難所の機能強化を図るとともに、利用者の多いSNSなどを活用し、災害や危機管理情報の配信を実施してまいります。

また、災害時の避難所におけるトイレ対策として、「(仮称)災害時トイレ整備計画」を策定し、マンホールトイレをはじめとするトイレ機能の整備を計画的に進めるほか、福祉トイレカー「とまレット」の緊急出動に備え、オペレーション業務を担う職員を育成し、災害対策強化に努めてまいります。

さらに、北海道胆振東部地震における災害対応の検証を進め、災害に強い苫小牧を目指し、市民の安全・安心の確保に努めてまいります。

IV 自然を生かし、環境と調和のとれた 美しいまち苫小牧 守ります！

＜受動喫煙防止条例を制定します＞

受動喫煙による健康被害の防止を目的とした、「受動喫煙防止条例」を制定し、公共施設の段階的な施設内全面禁煙を推進するとともに、禁煙施設をわかりやすく周知してまいります。

また、民間施設における分煙設備などの整備に対する助成を行うほか、妊産婦への保健指導や禁煙に関する教室を開催するなど、分煙・禁煙を推進してまいります。

<空き家、空き地対策を推進します>

空き家対策につきましては、危険家屋の対応や相談窓口の一元化を進めるほか、専門的な相談内容を受け付ける連携体制を確立し、増加する老朽家屋などへの対応を進めてまいります。

また、空き家の利活用につきましては、関係団体と連携し、売却や購入などの需給のマッチングを促進する仕組み作りを進めるとともに、解体に対する助成制度の創設を検討してまいります。

<クリーンで快適なまちづくりを進めます>

「苫小牧市災害廃棄物処理計画」の策定を進め、糸井清掃センター廃炉後の跡地を災害廃棄物の集積場として活用することを検討してまいります。

また、053大作戦ステージ5として「苫小牧市一般廃棄物処理基本計画」の目標達成に向けた事業を展開するほか、家庭ごみの戸別収集を検証し、苫小牧方式の収集方法を確立してまいります。さらに、食品ロス削減に向けて、フードドライブ運動や2510（ニコとま）運動などを推進してまいります。

<霊葬場や霊園の施設整備を実施します>

霊葬場設備の経年劣化に伴う改修や死亡者数の増加に対応するため、火葬炉を7炉から8炉へ増設し、安定した施設運営を進めてまいります。

また、近年の墓地貸付数などの状況や共同墓の設置による利用者の状況を把握し、ニーズに応じた霊園整備を実施してまいります。

<環境保全・地球温暖化への対応施策を実施します>

自然と地域の調和を保つため、有識者の意見を踏まえ、自然環境保全地区である拓勇樹林の整備を進めてまいります。

また、新・省エネルギーシステム助成につきましては、各家庭におけるエネルギーの一元管理を行うホームエネルギーマネジメントシステム（HEMS）を対象機器に加えるなど、ニーズや省エネ効果を考慮し、助成内容を検討してまいります。

V 心の通い合う、やさしい音楽の流れる 温かなまち苦小牧 愛します！

＜子どもたちの心豊かな成長をサポートする環境を整備します＞

科学センターの移転改築につきましては、機能の拡充や宇宙ステーション・ミールを観光資源として活用するとともに、公共施設との複合化など、施設の在り方についても幅広く検討してまいります。さらに、現施設の壁面モザイク画の保存や再生を検討してまいります。

また、新千歳空港の深夜早朝発着枠拡大に伴う地域振興策として、沼ノ端鉄南地区に図書館機能を有する文化交流施設の整備を進め、子ども向けの絵本や漫画などの特色ある図書機能の充実を図ってまいります。

＜幼児を持つ家庭を応援します＞

新たに供用を開始した北栄児童センターをはじめとする市内の子育て支援施設の利用促進を図るとともに、既存施設の空きスペースや新たに整備する公共施設内に室内遊戯スペースの設置を検討するなど、天候にかかわらず親子で安心して遊べる空間を提供してまいります。

直営保育所につきましては、「苦小牧市新保育所整備計画」に基づき民間移譲を進めるとともに、直営を継続する保育所におきましては、障がい児などの受入拡充を進めてまいります。

＜とまこまいの文化・芸術活動の発展を目指します＞

青少年ミュージックキャンプに参加した若手音楽家による苦小牧音楽祭を開催してまいります。

また、美術博物館における展示環境の整備などを進め、地元企業の協力を得た美術展を開催し、芸術的価値のある作品に触れる機会を提供してまいります。

＜国際化を意識した施策を展開します＞

国際友好都市との交流につきましては、秦皇島市との友好都市締結20周年記念事業で築いた新たな友好関係を踏まえて、医療や経済などを通じた幅広い分野での相互交流を図ってまいります。

さらに、平成32年（2020年）にネーピア市と姉妹都市締結40周年を迎えることから、市民訪問団を派遣し、市民間交流を深めて

まいります。

また、海外派遣事業や国際理解講座、異文化交流事業など、市民の国際理解の促進と交流機会の増加に努めてまいります。さらに、海外留学を支援する制度の検討を進めてまいります。

＜大学教育との連携を深めます＞

苫小牧駒澤大学への支援につきましては、奨学金返還支援制度・教育ローン利子補給制度を創設し、在学中の支援を検討するほか、職員派遣などの人的支援を検討してまいります。

また、高等教育機関と連携し、中高生を対象にした公開講座の実施や社会人を対象とした学び直しの場を提供するとともに、学生が企画したスポーツイベントを民間団体と連携して実施するなど関わりを深めてまいります。

■ むすび

私は4期目の基本テーマとして「快適都市を目指して～笑顔あふれるふくしのまちづくり～」を掲げました。3期目に続く、ふくしのまちづくりへの挑戦となりますが、一貫性を持ちつつも時代の要請に見合う新しい視点で施策を展開してまいります。

人口減少や少子高齢化といった将来への不安要素に直面する中、難しい市政運営が求められています。多様化する社会情勢を敏感に感じ取り、前例にとらわれず、真に必要な施策を判断することを強く意識していかなければなりません。

苫小牧市が20年先も発展を続けていくために、お示しした基本政策を確実に進めるとともに、市民の皆さんと目指すべき将来像を共有し、快適都市を目指してチャレンジを続けてまいります。

与えられた4年間、謙虚さを忘れることなく、決しておごることなく、より一層の決意と情熱を持って市政運営に取り組んでまいります。

市民ならびに議員の皆さんのご理解とご協力を重ねてお願い申し上げます。